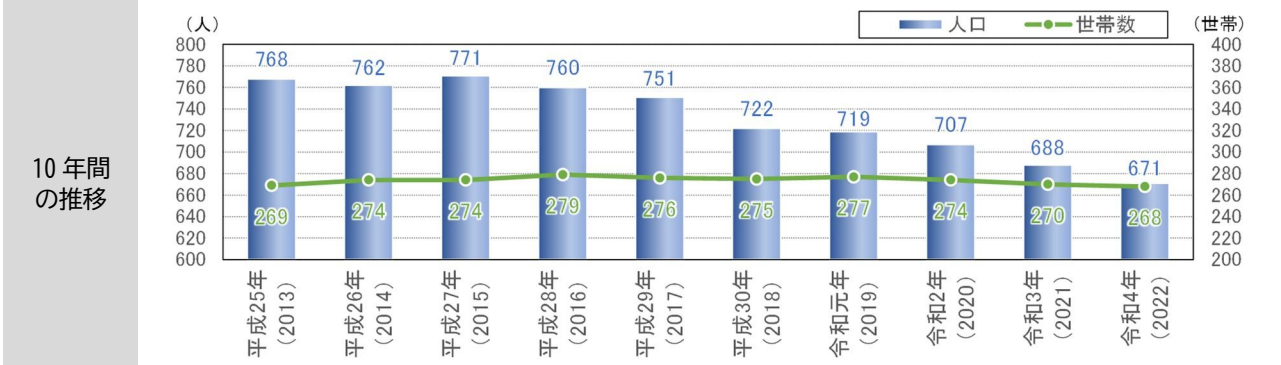
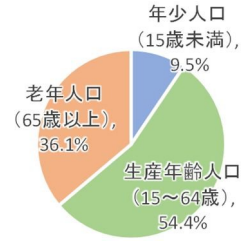


	世帯数	人口	年齢別人口
現在	268 世帯	671 人	15 歳未満 (年少人口) 64 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 367 人
			65 歳以上 (老年人口) 244 人
約 50 年前	181 世帯	810 人	



**歴史等**

縄文時代の春日遺跡、古屋敷遺跡、北挾遺跡では、動物を捕獲するための落とし穴が確認されており、字古屋敷付近から前垣内、奥垣内へと集落が拡大しいったと考えられています。古代律令制では播磨国神前郡多駝里に含まれたと考えられています。福井谷窯跡では鴟尾が出土し、朝鮮半島や中国大陸の進んだ文化や技術を修得した技術者集団が渡来して住み着いていたことが伺えます。また、多くの須恵器とともに古代の祭祀に使用する木製の人形や齋串などが見つかっている文治遺跡や文治口遺跡などの所在とあわせて、役所的な施設が存在していた可能性もあると考えられています。

地名は莊園経営にちなむと考えられます。中世は陰山莊に含まれたと考えられ、近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となりました。元禄年間以前に、当村から小倉村が分村しましたが、近世を通じて、近代の神東・神西郡の区域内では第一の大村でした。元文2年(1737)の庄村明細帳によると、家数は78軒・人数373人でした。明治9年(1876)に八千種村の一部となりました。



常住寺



初午



秋祭り・屋台



地蔵菩薩立像等 (地蔵堂)



力士墓



玉屋路傍道標

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

## 歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	1	善光寺三尊立像（常住寺）	寛政 11 年 (1799)	善光寺三尊の石仏。基礎には施主又は願主と思われる 20 名の名と造立年月が記されている。				●		
	2	地藏菩薩立像（地藏堂）	明治 7 年 (1874)	地藏菩薩の石仏。正面に像容と造立年月が記されている。				●		
	3	地藏菩薩立像（地藏堂）	明治 10 年代	地藏菩薩立像。正面に像容と造立年月が記されている。				●		
	4	不動明王立像（常住寺）	不明	不動明王の石仏。				●		
	5	弘法大師坐像（常住寺）	不明	弘法大師の石像。				●		
	6	刻経塔（常住寺）	天明 5 年 (1785)	石塔移設の際、銅板に梵字を刻んだ宝篋印陀羅尼経が出土。				●		
	7	石灯籠（常住寺）	元禄 16 年 (1703)	石灯籠。正面には「釈迦堂御宝前 献御石灯籠両基」の文字と共に造立年月日・施主が記されている。				●		
	8	石灯籠（地神社）	明治 24 年 (1891)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、側面に造立年月が記され、基礎には周施人・願主が記されている。				●		
	9	手水石（地神社）	大正 2 年 (1913)	手水石。正面に「奉納」の文字とともに寄贈者が記され、右に造立年・世話人が記されている。				●		
	10	狛犬（地神社）	大正 2 年 (1913)	石造狛犬。				●		
	11	井筒（地神社）	不明	井筒。正面に「福崎 鯉田歯科医院」と記されている。				●		
	12	従軍記念碑（常住寺）	明治 38 年 (1905)	正面には「従軍記念碑 陸軍中将従四位勲三等柴野義広君」と記されている。						●
	13	川池及新池由来記（地神社）	昭和 3 年 (1928)	公共事業記念碑。正面には「川池及新池由来記」の文字とともに由来等が記されている。			●			
	14	宝篋印塔（常住寺）	明応 3 年 (1494)	宝篋印塔。塔身はコンクリート製である。上部が折れている。				●		
	15	宝篋印塔（常住寺）	永正 17 年 (1520)	宝篋印塔。				●		
	16	道標（庄玉屋路傍）	不明	道標。正面には地藏坐像の像容とともに「左 北条 右 法花山」と記されている。				●	●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	17	道標（庄玉屋路傍）	不明	道標。正面には地藏立像の像容とともに「□□□ □ひめじ道」と記されている。				●	●	
	18	道標（常住寺移設）	不明	道標。正面には地藏立像の像容とともに「右 ながめなかしま 左 いわべ」と記されている。				●	●	
	19	道標（庄野垣内路傍）	不明	道標。正面には「南無阿弥陀仏」の文字とともに「此方 いわべ じんざい」、左には「此方 辻川 □近平」と記されており、右と背面にも「此方」の文字が見えるが、その下の地名は判読できない。				●	●	
	20	道標（庄野垣内路傍）	不明	道標。正面には地藏坐像の像容とともに「右 御立 岩部 左 にぶの ひめじ」と記されている。				●	●	
	21	道標（庄野垣内路傍）	明治9年 (1876)	道標。正面には地藏立像の像容とともに「右 辻川 左 村道」と記されている。				●	●	
	22	道標（地藏堂）	不明	道標。正面には地藏立像の像容とともに「西 ひめじ 東 たかむろ」と記されている。				●	●	
	23	石標（地神社）	昭和3年 (1928)	石標。正面には「御大典記念」、右に「庄青年分団」、左に造立年月が記されている。				●		
	24	勇獅子利右衛門墓	安政6年 (1859)	力士墓碑。飯盛山北山麓に位置する。				●		
	25	勇獅子清太夫墓	明治38年 (1905)	力士墓碑。飯盛山北山麓に位置する。				●		
	26	江戸時代の墓石	—	大西山の南西山麓に位置する江戸時代の両墓制詣り墓。	●			●		
美術工芸品	工芸品	27	半鐘（常住寺）	宝暦10年 (1754)				●		
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	28	庄区有文書	—	74件（点数不明）。神戸大学の指導・協力によりデータベース化され、宮の池復活の願書、復活について余田村との取決条項、苅又池付近で発生した水論、屋台の宮入についての規定書、西光寺野開墾土地の松材に関する訴願、それに対する返答書等がみられる。	●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
美術工芸品 書跡・典籍・ 古文書・歴史資料	29	圓照寺文書	—	2019年、古い本堂を取り壊した際に近世～近代にかけての約70点の資料を発見。目録作成等を実施。		●				
	30	若宮神社再建棟札	明治7年 (1874)	庄区蔵。地(若宮)神社の棟札。総高80.0×上18.0下18.0cm、厚さ1.8cm。				●		
	31	若宮神社移転由緒札	大正2年 (1913)	庄区蔵。地(若宮)神社の棟札。総高93.7×上19.3下19.5cm、厚さ3.4cm。明治45年(1912)に同地区内にある地神社に移転・合併されたと記されており、その後大正2年(1913)に舞殿・拝殿を新築し、2月13日から3日間上棟祭典が行われたことが分かる。				●		
	32	地神社社殿新築棟札	明治7年 (1874)	庄区蔵。地(若宮)神社の棟札。総高34.2×上6.0下6.0cm、厚さ0.3cm。				●		
	33	若宮神社舞殿拝殿上棟棟札	大正2年 (1913)	93.7×19.5×3.3cm。				●		
有形の民俗文化財	祭具	34	屋台(庄区)	大正13年 (1924)	布団屋根型屋台。3代目屋台であり、大正13年(1924)に姫路市白浜で大工麦本政雄の手により制作され、姫路の博覧会から担いで帰ってきたという逸話が残っている。				●	●
無形の民俗文化財 年中行事・ 民俗芸能	秋祭り(八千種)	35	秋祭り(八千種)	—	八千種地区の余田・庄・鍛冶屋・小倉の屋台4台(いずれも布団屋根型)・神輿1台が大歳神社に集まる(近年は担ぎ手不足のため小倉屋台は不参加)。本宮では、屋台が宮入りし、境内での屋台練りの後、浄舞が舞われて神輿渡御が行われる。神輿に続いて屋台も宮出を行い、神社前の池畔の御旅所前で神事後、再度浄舞が舞われる。神輿の還御が行われ、再び屋台が宮入りし、境内で練り合せを行い、各地区代表による手締めの後、宮出となる。			●	●	●
		36	初午	—	2月第1日曜に松永神社で行われる。				●	
		37	七夕祭	—	庄公民館において子ども会が現在も実施している。				●	
		38	盆踊り	—	庄公民館において青年団主催で行われる。				●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡 散布地・集 落跡・生産 遺跡等	39	福井谷遺跡	奈良時代	周囲には奈良時代の土器や鴟尾を焼いたことで知られる福井谷窯跡や鴟尾棺を出土した姥懐古墓、窯焼きや土器作り工人がいたと考えられる文治遺跡や文治口遺跡が存在する。東接する加西市にも窯跡が確認されており、一帯が窯業生産遺跡の密集する地域である。		●				
	40	八千種庄上野田遺跡	近世	近世の遺物の散布地。		●				
	41	八千種庄下野田遺跡	近世	近世の遺物の散布地。		●				
	42	八千種庄京田遺跡	奈良時代～中世	奈良時代から中世にかけての集落遺跡。		●				
	43	八千種庄古屋敷遺跡	縄文時代～鎌倉時代	縄文時代後期の動物を捕獲するための落とし穴跡をはじめ、古墳時代の竪穴住居跡、奈良～鎌倉時代の掘立柱建物が複数確認されている。時代を通じて安定的に人の営みが続いていたことが分かる。		●				
	44	八千種庄北挾遺跡	縄文時代後期	縄文時代後期の動物を捕獲するための落とし穴跡が発見されている。弥生時代前期と考えられる土器片も出土しているが、遺構は確認されていない。		●				
	45	八千種庄春日遺跡	縄文時代後期	縄文時代後期の動物を捕獲するための落とし穴跡が発見されている。		●				
	46	八千種庄宮ノ池沢遺跡	奈良時代	奈良時代の集落遺跡。		●				
	47	八千種庄文治遺跡	奈良時代	窯跡に関する生産遺跡で、須恵器が多く出土している。古代の祭祀に使用する木製の人形や齋串などが見つかっている。字名から、文字を使うことができる官人の存在が考えられる遺跡。		●				
48	八千種庄文治口遺跡	奈良時代	柱穴が見つかり、福井谷遺跡や文治遺跡に関連する工房の建物があったと考えられる。字名から、文字を使うことができる官人の存在が考えられる遺跡。		●					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	49	福井谷窯跡	奈良時代	窯跡が2か所確認され、土器が多数出土している。鴟尾も出土し、須恵器を作る工人が鴟尾を作っていたことが分かる。また、下層部からは俵を編む道具や8世紀前半の木製仏像などの木製品、土で作った馬や銅製の輪状になった鋳造品なども見つかり、近くの文治遺跡、文治口遺跡などとあわせて、役所的な施設が存在した可能性も考えられる。					
	城館跡・神社跡	50	春日山城跡	中世	中世の城跡。建武年間(1334~1336)の築城とされ、後藤基明が初代城主と伝える。天正6年(1578)、羽柴秀吉の播磨攻略で落城。春日山の山頂には、曲輪、食糧貯蔵庫跡などの遺構が残る。					
名勝地	山岳	51	春日山	—	播州後藤氏の居城と言われている春日山城の城跡が残る。標高198mの山頂からは、姫路平野を見渡すことができる。登山道が整備されている。					
動物・植物・地質・地質物	植物	52	ボダイジュ(常住寺)	—	樹齢百年を越す。シナノキ科の植物。釈迦が悟りを開いたのはクワ科のインドボダイジュの下であり、これとは別ものである。					
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	53	宮の池	江戸時代	江戸時代の築造。享保元年(1716)に埋め立てて新田にされたが、その後庄村からの嘆願により復活された。					
その他	信仰の場	54	地(若宮)神社	—	天照皇大神を主祭神とする庄区の氏神。明治45年(1912)に若宮神社が当神社境内に移転合併した。交通安全や学問の神様なども祀られている。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
その他 信仰の場	55 圓照寺	文明 16 年 (1484)	文明 16 年 (1484) 了順法師により開基された浄土真宗の寺。春には本堂前に真っ赤なシャクナゲの花が咲く。昭和初期に田口の作門寺が現在の金剛城寺の地に移転した時に下された瓦の一部が使われ、本堂の木組みにも作門寺の遺構が使われている。境内には「天保」の年号が刻まれた鬼瓦等の屋根瓦の一部が残る。				●		
	56 松永神社	—	松永稲荷大明神を主祭神とする。文政の前、西光寺野開墾以前の創建である。播磨稲荷の本社でもあり、近隣市町在住者からも崇敬されている。				●		
	57 地藏堂	—	春日山北麓に立つ。木造、切妻・瓦葺の小堂。道標地藏を中心に、約 40 軀の地藏が安置されている。				●		
	58 常住寺	—	山号は宝生山、本尊は釈迦如来。通称「釈迦堂」で知られており、8 月 14 日には釈迦会が開催される。				●		

## 歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・ 庄祭り保存会を組織し、区に伝わる一つ物神事「庄竹割り」と太鼓の演奏などを継承し、竹割りの推進並びに後継者の育成に努めています。
- ・ 常住寺盆踊り保存会を組織し、常住寺盆踊り等の地域に伝わる伝統芸能を子どもたちに伝え、後継者を育成しています。
- ・ 老人会、自治会が中心となって、若宮神社の清掃、神前幕新調などを実施しています。
- ・ 自治会、青年団、庄祭り保存会が中心となって、常住寺の入口溝蓋修理、境内樹木選定、雨漏り修理、台風による敷樋入替・屋根修理などを実施しています。
- ・ 文化財協力員が中心となって、大西山両墓制墓石群の倒壊している樹木の撤廃、墓地と周辺の草刈り・清掃、倒壊している墓石の復旧、墓地・墓石の管理を実施しています。
- ・ 自治会、子ども会、うぶすな庄護会が中心となって、ため池群の土手の草刈り、草焼き、清掃、空き缶・空き瓶の除去を実施しています。
- ・ 公民館に保存している庄地区所有の古文書を神戸大学地域連携センターの指導・協力でデータベース化を実施しています。
- ・ 春日山を考える会（庄・鍛冶屋）により、春日山の活用方策の検討などの取組が進められています。



庄地区所有の古文書整理の様子  
(平成26年2月)